

ルで豆板の様な菓子を持つて食ふオートミールは石灰鹽類を實に澤山持つて居る物である夫で硬い菓子を拵へさせて小兒の時分から食べ慣れるから蘇格蘭人は實に世男中第一等の齒の丈夫な人民である齒の衛生上から云ふと可成齒へ陰附かないバサ／＼した米煎餅の様な物が宜い米煎餅などは口へ入れると齒に陰附かないのみならず唾で溶けて了ふから齒の爲には實に宜い齶齒と云ふ物は實に危険な物で其處から種々な微菌が入つて或は中耳炎をも起し或は骨膜炎をも起す實に恐ろしい物です云々

薔薇の話

礫川生

愛玩植物の數は夥多あります。其のいづれを優れりといひづれを劣れりと致す事は出来ませんが花も美しく香もゆかしいものは薔薇に如くものはありません。日本の櫻支那の牡丹と相對して泰西では大層薔薇を賞玩致します。その結果所謂

薔薇祭なるものが年々行はれると云ふ事です。この祭は古くローマ、ベニス等の町が盛んであつた頃より行はれ今猶五月には行ふと云ふ事です。殊に米國の西部は氣候温和にて四季花の絶ゆる事なくワシントン州のタコマ市の如きは此の薔薇祭が最も盛んでありまして市中より妙齡の少女數人を選抜してその中の一人を薔薇の女神とし花を以て全身を飾り他の少女等を従へて市民より花の冠をいたゞく式があると云ふ事です。薔薇は日本に於ても古くよりあつて「いばら」「しやうび」「うばら」「うまら」「さうび」などと稱しました。萬葉集十六及廿に「うまら」とあります然し薔薇は日本固有のものでなく支那若くは朝鮮を経て渡來したものでありませう。然らば薔薇の原産地は何處かと申しますと之れはいろ／＼と議論のある事ですが私は亞細亞だと信じます。今日では廣く世界にゆき渡りましたが英國及佛國が薔薇の産地の重要なものであります。日本では古來あまり薔薇は賞玩致さなかつたものと見へ許六が百花譜中に「長春ばらのたぐひは紅白うつくしく粧ひたる

には似たれども元來いやしき花の殊に盛り久しきこそうたてけれ云々とあります、尤も日本在來のもの皆野茨とも申すべき種でありましたが近來は泰西より種種輸入されその種類も枚擧するにいとまない程です、今左に極く簡単に薔薇の栽培を述べて見ませう

薔薇の移植

薔薇は一年中何時でも移植する事が出来ます。然し極く寒い時期などはよろしからず十月より一月頃までの間は移植するによい時期であります。移植する時期は各地方により勿論一定しません。一凡に溫暖の地は暮秋がよろしく寒冷の地は初春を選びます尤も溫暖の地にても地底に水氣を止むる如き所は初春に移植する方がよいのです。移植の時には鬚根を大切になし若し損したる箇所あらば鋭利なる小刃で切り去らなければいけません。遠地から送つて来たものは大底鬚根が多少損じて居りますから必ず手入をしなければいけませんそのまゝに放擲してをきますれば損したる所よりド

ンと腐敗し始めます。暮秋に移植する時には腐肥を埋めまず春期の移植には膏腹なる土地ならば地上に少し肥料を與へれば充分です。肥料を土中に埋めまずと夏期の早魃に堪へません。鉢植のものは毎年移植するを要します然らざれば良花をつける事がむづかしいのです

土と壤

地質は砂土混合したる肥沃の土地をよしと致します。もし土地が粘土質でしたら灰、石灰、腐肥等をまぜ輕鬆になしもし又あまり輕鬆に過ぎましたら粘土又は推糞をませます。薔薇は總じて濕潤をきらいます。デインホル氏の言葉に「薔薇の花園は被蔽すべしされども蔭蔽すべからず」とあります。薔薇をして多く蓄をつけしめんには充分に日光にあて土壤は乾燥せしむる方がよいのです。盆栽にして樂むには鉢は素焼のが最も上等です

肥料

米の磨き汁又は魚肥なんでも皆肥料として用ゆる事が出来ませす。糞草粕、鳥糞牛豚の糞皆肥料に適します殊に牛糞は最もよく豚糞之に次ぎます、肥料に糠を與へる時は虫か發生する事があります

灌　水

灌水は臨機應變で謂所過ぎたるは及ばざるが如しであまり度を過してもいけす又あまりなげやりにしておいてもいけません要は中庸を得るに在りて獨り灌水に限らずあまり樹木をいちりまはすのはよろしくありません或程度までは自然にまかして置くのがよいのです之れが栽培の秘法であります灌水は某氏の實驗されたのが適當と思ひますから左に轉載いたします

| | | |
|----------|--------|----|
| 十二月より三月 | 一週毎に一回 | 日中 |
| 三月中旬より四月 | 二日毎に一回 | 日中 |
| 五月より九月 | 毎日一回 | 日中 |
| 十月より十一月 | 二日毎に一回 | 日中 |

まづ大體右の標準で致したならば大差なからうと思ひます。

薔薇の繁殖

種々なる繁殖法があります。最も容易で且面白く繁殖法は扦插法であります。此の法をなすにはまづ前年發生したる枝を長さ三四寸に切り（此の枝の長さは九寸以上なるをよしとす）芽を二つ三つつけおき地面にさしこみ地の上をよく壓しつけ固め日被をまうけ土地の乾燥せぬやうに注意し時々灌水する時は三四週間の中に根を生じます、之をなす時期は春秋の彼岸又は梅雨中をよしとし土壌は圃土の輕鬆なるをとり砂と等分に混じてつくります。四季咲くものは一般によく根付くものなれど一季咲の種は成功しにくいものですかくして生じたるものは長く土中に置く方がよいのです次に薔薇の雜種を作るも亦たのしみなものです。先づ之をなすには雜種を作らんと欲する二種の薔薇をとり、翌日開かんとする花を指頭にて徐かに開き剪刀にて雄蕊を悉くとり去り雌蕊のみを残し翌日満開の時他種の雌蕊の花粉を軟かなる毛又は筆頭につけ雌蕊の頭につけますかくして降霜後結實して充分に熟したるをとり小刀にて割りその

中の種子をとり出し、數日間陰干にし、後肥土をもちりたる鉢に播種します。かくして、充分霜を防ぎ、發芽したるを翌春に到り地に移します。成可くはやく蒔種するをよしとし、然らざれば發芽遅きものです。種子を保存する時は必ず實ごと貯へねばいけません。かくして六年の後に到りはじめ、紅白の二種を雜種せしめしならば、その中間の雜種を生じ、面白です。又枝に全く他の種の花を着く事もあり、ます。例へば楊貴妃より白色の驪山の月が生せしやうなものであり、ます。

薔薇の種類

種々なる類別法がありますが、今最も簡單に開花する期によつて大別して見ますれば、

- 一季咲き
- 三季咲き
- 四季咲き

となり、ます。一季咲きは初夏に一回、三季咲きは初夏開花後に剪枝灌水等をすれば、初秋又は中秋に花をつけ、四季咲きは四月末より一月上旬まで花をつけ

ます。四季咲きのものには新天地、慶典、虎の洞、猩々舞、天國香、泰山白、世界の圖、白黃、美香登、楊貴妃等、一季咲きには白の大鳥毛、黒の大鳥毛、金の塵、岩鏡等、澤山あります。四季三季咲きのものも手入あしき時は、二季一季しか花をつけなくなり、ます。薔薇の種類は非常に多數であり、まして中には同一種に異なつた名稱を負せたものもあります。詳しくは薔薇の花鑑を御覽になれば別ります。

剪枝と剪根

薔薇は古い枝幹に花を開かず、必ず新しき枝の上に花をつけるものであります。又古い枝をそのまゝに残して置きますと、新枝が細かく密生致します。されば必ず剪枝を行はなければいけません。剪枝する場合には、少し思ひきつて餘計に切つて仕舞ふ方が、反つて好結果です。又同時に剪根と云ふ事も大切で、す之れは一寸考へますと、根は餘計あつた方が、餘計營養分を吸収するであらうと思はれます。古根は適宜に切る方がよろしいです。剪枝の場合でも、剪根の場合でも、用ふる小刀は必ず銳利な

物をえらばなければなりません。花が咲き終りま
したならば實は種子を採るのでなければやく採
り去る方がよろしいのです

薔薇の花と葉

花の形は或は丸き或は扁き又は八重一重鐘の形に
似たる等數多あります。又色も白紅黃赤實に千態
萬狀であります中には咲き始めて散るまでに花の
色の變るものもあるが第一に重きを置くのは花の色
であります又花の形、香ひ及び開花期の長短など
薔薇の優劣を定める標準となります。又その葉

- 一、葉厚く色濃く艶ありて葉の切込み粗にして淺し。白黃の類
- 二、葉厚く色濃く艶ありて葉の切込み細かくして深し。天國香の類
- 三、葉厚く色薄く艶なきもの。虎の洞
- 世界圖の類
- 四、葉薄く色濃く艶あり葉の切込み荒く粗にして深きもの。黃司濱荻の類

五、葉薄く色淺く艶なし脈細かなるもの
は白花にて野茨の類なり
まづ以上大體五つですその他岩鏡の類の葉は大體
白黃の葉に似てをりますが又異なつた點もありま
す要するに以上の五種を標準となさりましたら
ば一寸類別が出来る事でありませうと思ひます。

薔薇の害虫

種々なる害虫が發生致します。従つてその驅除法
も夥多あります。除虫菊又はテレピン油を用ひ
て驅除する事が出来ます。又薔薇の新芽の柔軟な
部分に爪にて痕をつけたる如き痕のある事があ
ります。之れも害虫が卵をつけたる所でありま
す。から直ちに籠の如きもので爪痕の中を削る様
にして搔取らなければいけません

花言葉

終りに種々なる花には種々なる意味を持つてを
ります。例へば堇の貞操を意味する如き又はうまご
やしの葉が幸福を意味する類であります。薔薇は

愛をあらはしてをります、然しその色又は花の取扱ひ方などによりまして色々の意味をあらはします左に二三の例を擧げて見ませう

紅き薔薇 恥かしさ
黄き薔薇 嫉妬
一重の薔薇 質朴
白き薔薇と紅き薔薇 一致共同
薔薇の花を逆に差出したる時は
否定の意味

等であります。霞を食ひ雲にのる仙人は知らず我々の如きものでも觀賞植物の花を食すると云ふ事は非常に風流の事と思ひます。日本にても菊の花、櫻の花又は牡丹の花などは食用と致しまするが土耳古にては昔からデコルシャヤと申す一種の花籃を作ると云ふ事です 又支那に於きまして

明の顧元啓の茶譜の中に
「木犀玫瑰薔薇蘭梅花云々皆茶となすべし」とあります

之れは梅や薔薇の葉又は花より茶の代用品を作るのではなく茶葉に梅薔薇の如き芳香のある花の香を移すのであります、いまだ梅の香

の致すお茶や蘭の香にする御茶を頂いた事はありませぬがいかにも風流の事と思はれます。又希臘の神話などに「天の使が瓶の酒を盗した。夫が地に落ちて薔薇となつた」など云ふ話もあります

附言 値木屋は駒込の美香園又はばら新か大久保の華州園などに小一圓も持つて行けば相當な薔薇が求められます。陽大といふ種の如きはアメリカンビューチイと云つて賞讃されますが日本では至つて廉價に求める事が出来ます。

